

率は93・5割と昨年の88・7割から好転したものである。

また、医療外収入支出に関して90・968千円の利益があった。内容は他会計負担金が83・242千円と昨年の60・706千円より22・536千円増加した。約32,000千円の経常利益が出たとはいえ、累積欠損金が311,900千円残っており、指定管理者の旭川荘とも連携を図りながら、引き続き収益の増に努め支出経費の削減を図りたいと考えている。

### 問 町と旭川荘の信頼関係は保たれているか

答 昨年の12月13日には、私と副町長が旭川荘本部を訪れ、末光理事長や江草名誉理事長から、国内有数の総合医療福祉施設となっていることを話していただくなど、情報交換を行った。

また、2月に行った「鬼北の医療と介護の未来を考えるシンポジウム」では北宇和病院の院長や南愛媛病院の院長に講話をしていたなど、今後の鬼北町・施設・医療機関が連携して鬼北地域医療の将来の方向性を検討するよい機会であった。

そして4月には、開院5周年記念式典が、国會議員、県會議員、旭川荘江草名誉理事長他関係者が

多数参加のもと開催され、地域住民に信頼してもらえ病院になるよう認識を新たにした。

鬼北町と旭川荘との信頼関係は非常に強く、双方が情報を共有し、地域の皆さまになお一層信頼してもらえ、素晴らしい病院になるよう互いに力を尽くす所存である。

### 問 今後、何に重点を置いて力を注ぐか

答 北宇和病院が目指す基本理念は、「誠意、努力、信頼」である。

病院の基本方針については、3つ掲げており、一つ目は、地域の医療、介護、福祉の包括的な連携を図ること。二つ目は、健全な病院運営を目指すこと。三つ目は、住民の健康を守り良質な医療の提供を目指すことである。

基本的な病院経営については、医師の確保がもつとも重要なことだと考えている。

病院の核は医師であり、医師の安定的な確保は、病院運営にとって大きく影響する。医師の働きやすい環境整備はもとより、医師募集にも力を入れたいと考えている。次に、当地域は高齢化率が高く、平成27年度には40割程度になると予測されていることから、今後ますます高齢者に対する医療の充実が求められているところである。具体的には、平成20年度に病院

内に設けた「地域連携室」が、主に入院患者の入院、退院から在宅での生活支援までカバーし、患者の紹介や逆紹介などの役割を果たせる体制づくりを構築している。なお、その連携を図るために、病院、訪問看護ステーション、南愛媛病院および町保健福祉課や地域包括支援センターなど関係機関での検討会を、今後も引き続き積極的に進めることが重要と考えている。

### ◆ 渡邊 眞次 議員

#### 【ゆず加工場新設計画の現状について】

#### 問 ゆず生産振興の取り組み状況について

答 現在49畝、365戸で栽培されている。生産されたゆずは、ほとんどが搾汁加工され出荷販売されている。また、搾汁後のゆずの皮は、堆肥センターで堆肥として処理されている。

しかし、作付面積の増加に伴う生産量の増加で、今後は生産の過剰基調が続くものと見込まれ、新たな販売ルートの開拓やゆず販売価格の維持が重要な課題になると考えられる。

栽培面では、生産履歴の記帳の徹底や、平成17年度からはより安全で安心なゆず生産を図るため、有機JASに準じた特別栽培に全

戸の農家を取り組むなど、消費者ニーズに対応した生産に努め、有利販売を図っている。

#### 問 新設加工場の場所選定等、計画の進展状況について

答 現在まで5回のプロジェクト会議を開催し協議しているが、いくつかの建設候補地の中から2箇所程度まで絞り込んでいる段階で、最終決定する状況には至っていない。また、施設規模、施設内容、事業費等も未定のため現段階で具体的に報告できる状況ではない。

#### 【町立北宇和病院の防災の取り組みについて】

#### 問 防災訓練等の取り組み状況について

答 北宇和病院では、医療法に基づき年2回の防災避難訓練を実施している。

2回の訓練のうち1回目は、新採職員を含め通常業務に支障の無い職員を対象に、消火器および消火栓の使用訓練と、入院患者の避難誘導訓練を実施している。

2回目の訓練は職員の少ない夜間を想定し、通報訓練、消火訓練や避難誘導訓練を実施している。

#### 問 防災設備の現状と、東北地方太平洋沖地震を受けた見直しについて